

2017年1月10日発行



環境活動レポート

対象期間 2016年1月1日～2016年年12月31日



 **株式会社長塚電話工業所**

私たちは、地域と地球の環境に配慮した事業者です

®環境省
エコアクション21
認証番号 0001360



目次

 目次	2
 環境方針	3
 事業活動の概要	4
 EA21 推進組織図	5
 環境目標とその実績（環境負荷実績と環境目標比較）	6
 環境活動の取組みと評価及び次年度の活動	9
 環境関連法規制の遵守状況	20
 代表者による全体の取組状況の評価と見直し	21



環境方針

<基本理念>

当社は、地球環境保全が人類共通の重要課題であることを認識し、社会の一員として、地球環境の保全と向上に貢献すべく、環境マネジメントシステムを経営の一環として取組み、全ての事業活動において環境保全に配慮した継続的な行動を推進します。

<行動指針>

当社は、すべての事業活動が環境に何らかの影響を及ぼしていることを認識、理解した上で、情報通信機器の商品の開発・製造・販売及びメンテナンスの事業活動においては特に、以下の環境保全活動に積極的に取組みます。

1. 事業活動の全領域で、安心・安全を基本とし、資源・エネルギーの有効活用、汚染防止、廃棄物の削減・適正処理及び製品のライフサイクルを通じた環境配慮製品開発及びサービス業務を推進します。
2. 環境に関連する法規制及び各自治体の環境条例、協定及びその他当社が同意する要求事項を遵守すると共に、可能であれば自主管理基準を設けて環境管理レベルの向上を図ります。
3. 次の事項を重点的なテーマとして、環境目標を設定し、その活動状況を環境マニュアルに沿って定期的に確認、評価、改善を行います。
 - (1) 資源の無駄使いを省くために業務における QCD の向上を図る。
 - (2) 製品に関する環境配慮の推進を図る。
 - (3) 電気エネルギー等の節減による CO₂ の排出抑制、総排水量及び廃棄物の排出抑制を図る。
 - (4) 化学物質の適正管理を図る。
 - (5) グリーン購入の推進を図る。
4. 基本方針の周知徹底のため、環境教育、社内広報活動の実施により、全従業員が結束して環境マネジメントシステムの維持向上を図ります。
5. 環境保全関連の行政機関、団体や地域社会における環境保全活動に対し、積極的に参画し社会貢献を推進します。また地域住民、利害関係者との双方向環境コミュニケーションをとり、環境改善を誠実に対応します。
6. 環境活動レポートは、社内外に公表します。

2006年9月1日制定

2013年1月1日改定

2016年1月1日改定

株式会社 長塚電話工業所

代表取締役

長塚 将



事業活動の概要

1. 事業者名及び代表者名

株式会社 長塚電話工業所

代表取締役 長塚 将

2. 所在地

【高津営業所】EA21 認証・登録範囲 (2007年2月26日認証・登録)

〒213-0031 神奈川県川崎市高津区宇奈根 643-3、643

【本社】EA21 認証・登録範囲 (2013年2月26日認証・登録)

〒152-0004 東京都目黒区鷹番 2-11-1

【西日本ソリューション事業部】EA21 認証・登録範囲 (2013年2月26日認証・登録)

〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀 1-9-11 アイ・プラス江戸堀 2階

3. 環境管理責任者及び担当責任者連絡先

環境管理責任者： 技術部 部長 櫻井 孝幸

担当者： EA21 推進事務局 岡田 あい子

連絡先： 電話 044-850-1533

FAX 044-850-1534

4. 事業内容

情報通信機器の製造販売及びネットワーク関連システム販売

5. 事業の規模 (2016年12月31日現在)

(1) 従業員数 20名 (本社1名 高津13名 西日本6名)

(2) 敷地面積 総延床面積 371㎡

【内訳】

■本社 約79㎡

■高津営業所 約225㎡ (施設増設のため50㎡増加)

■西日本ソリューション事業部 約67㎡

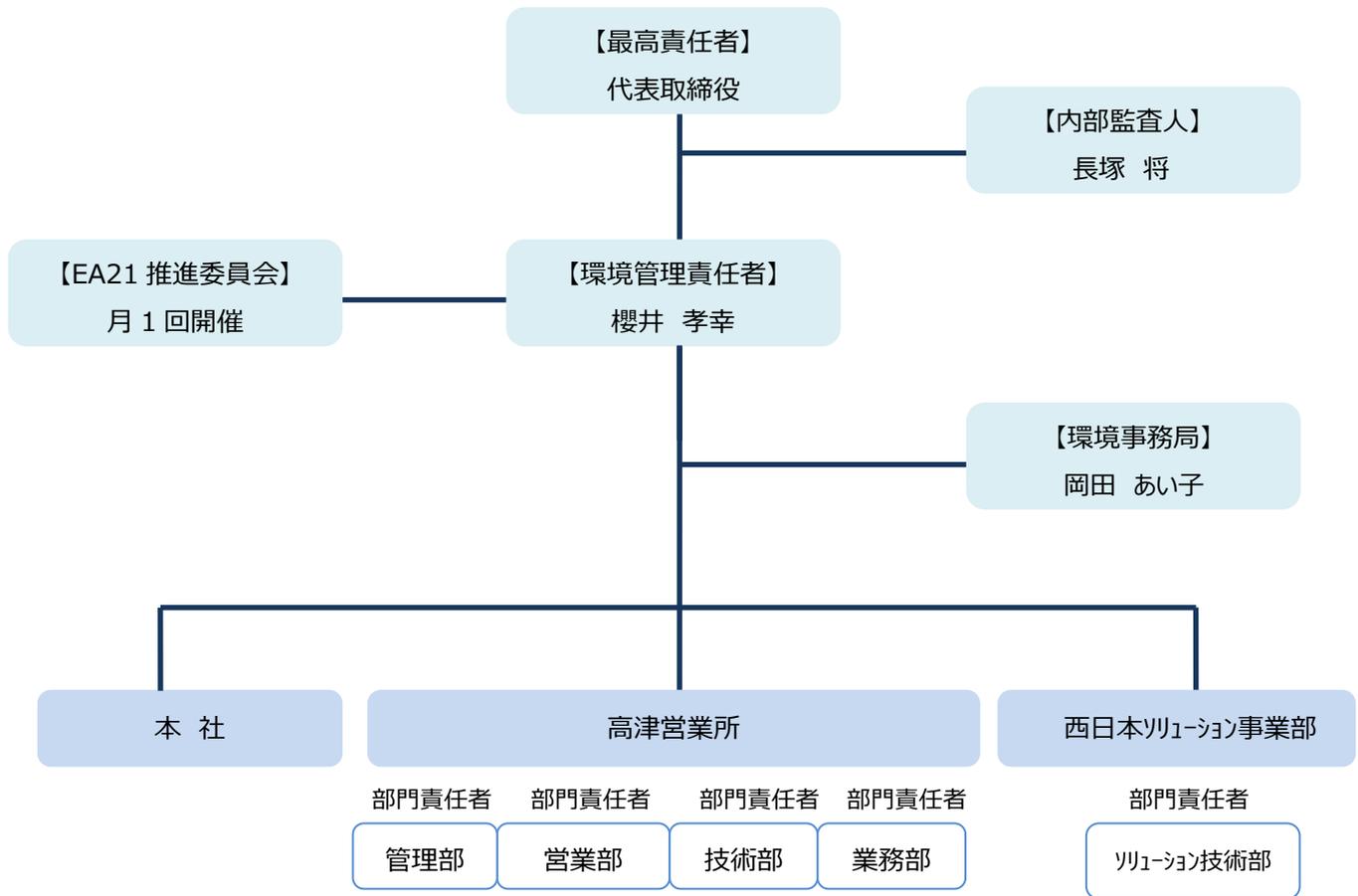
(3) 売上高 (2016年1月～12月) 630百万円



EA 2 1 推進組織図

当社 EA 2 1（エコアクション 2 1）の運用組織を下記の通り定める。

組 織 図





環境目標とその実績（環境負荷実績と環境目標比較）

1. 過去5年間の三大環境負荷の実績（総量ベース）

項目・単位	年度	57期	58期	59期	60期	61期
		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
二酸化炭素排出量※1	Kg-CO2	12135.70	12574.58	24995.24	20467.56	18797.00
廃棄物排出量 (事業系一般廃棄物) ※2	Kg	91.00	98.00	98.00	152.00	105.00
水使用量	m ³	52.00	64.00	61.00	53.00	52.00
備考（活動内容変更点）				大阪にて電力量データ取得開始	大阪にて廃棄物排出量データ取得開始	

※1 二酸化炭素の実排出係数は

平成 26 年度東京電力(株)の実排出係数 0.505Kg-CO2、関西電力(株)の実排出係数 0.531Kg-CO2 を基に算出しています。

大阪事務所の電力については、59期 2013 年からデータを取り始めました。

※2 廃棄物排出量は、大阪については 60期 2014 年からデータを取り始めました。

2. 主要な環境目標と環境負荷・実績

62期の環境目標、削減目標を下記のとおり定め、環境活動に取り組みました。

環境目標項目	61期	62期		63期	64期
	2015/1-12	2016/1-12		2017/1-12	2018/1-12
	基準実績	目標	実績	目標	目標
二酸化炭素の排出抑制	削減率	-3.6%	-12.4%	-6.6%	-9.4%
単位 Kg - CO2/売上 実排出係数 東京 0.505 大阪 0.531 平成 26 年度採用	31.43	30.31	27.53	29.37	28.48
Kg-CO2 総量データ	18797.00	18797.00	17436.00	18797.00	18797.00
焼却処理廃棄物の 排出抑制	削減率	-3.4%	+19.9%	-6.3%	-9.1%
単位 kg/売上	0.176	0.169	0.211	0.164	0.159
Kg 総量データ	105.00	105.00	132.00	105.00	105.00
水資源投入量の抑制	削減率	-2.7%	+17.3%	-4.5%	-6.4%
単位 m ³ /売上	0.110	0.107	0.129	0.105	0.103
m ³ 総量データ	52.00	52.00	65.00	52.00	52.00

今期は三大環境目標値に売上原単位を採用しました。基準値とした 61 期の総量実績値を売上原単位に変換させ表記しています。電力実排出係数は平成 26 度を採用して、再計算しています。

* 本社の電力使用量のうち、低圧電力はデータ入手可能であるが、従量電灯については、本社の家主さんのメーターを使用しており、使用量が不明のため、概算として総電力使用量の 1 / 3 を本社使用分としてとしている。また本社水使用量については、本社の家主さんのメーターのみで使用量が不明なために、概算として 1 か月、0.5 m³ を水使用量としている。

* 西日本ソリューション事業部については、個別の電気使用量、廃棄物量についてはデータ入手可能であるが、水使用量については、ビル内共同トイレのため情報入手は不可となっている。

今期（第 62 期）は、前期に引き続き、三大環境目標については、2015 年（第 61 期）のデータをベースに、目標値は売上原単位を採用しております。今期のトピックスとしては、高津営業所において高津営業所分室が 9 月から稼働したことです。9 月からの開設ですが、実質的には 10 月からの本格稼働となり、4 名の社員が分室に移動しました。社員移動なのでデータの扱いは高津営業所と合体で問題はないと判断致しました。分室増設による廃棄物の急激な増加はありませんが、分室には照明器具、エアコン設備等が設置しているので、電気使用量の増加は必至、トイレ等の水回り設備もありますので、水道使用量も発生することになりました。ただ 12 月まで実質 3 ヶ月稼働なので、新たな目標値を設定することはせず、全社的な節電行動及び売上アップで、目標クリアを目指しました。

- ① 二酸化炭素の排出抑制目標は、本社、高津営業所（高津営業所分室も含む）、西日本ソリューション事業部の共通目標としました。
- ② 焼却処理廃棄物の排出抑制目標は、本社、高津営業所（高津営業所分室も含む）、西日本ソリューション事業部の共通目標としました。
- ③ 水資源投入量の抑制目標は、本社、高津営業所（高津営業所分室も含む）の共通目標としました。

2. 上記の主要な環境目標の他に、以下の事項も目的、目標として取り組みました。

- ① **化学物質の管理の徹底**
 - ・ヘキサンの適正管理・使用記録
 - ・共晶半田の計測と使用記録
- ② **業務における QCD の向上**
 - ・ホームページの更新
 - ・日常業務における諸問題の顕在化と改善
 - ・ソリューション事業の原価管理の運用
- ③ **製品に関する環境配慮**
 - ・箱エコ（個装箱省略）の推進
 - ・情報処理票の運用
 - ・既存製品の設計の見直し
 - ・アダプターの生産計画
 - ・成型型パッケージングの検討
- ④ **グリーン購入の推進**
 - ・エコ商品購入比率 70%以上の維持
 - ・グリーン調達の継続

⑤ **5S・4定の徹底**

- ・商品、部品の定置定物化の実施
- ・ファイル、表示の統一化の検討と運用



1. 二酸化炭素の排出抑制

【取組み内容】

- 1) 5月～10月給湯器の使用停止
- 2) サーキュレーターの使用の徹底、空調温度の適正化
- 3) 電気機器未使用時の電源 OFF
- 4) 電気ケトル利用の工夫

	2015年 排出基準値	2016年 排出目標値	2016年 排出実績	評 価
Kg-Co2/売上	31.43	30.31	27.53	○
削減率		-3.6%	-12.4%	
Kg-Co2 総量データ	18797.00	18797.00 (総量現状維持、 売上 3.5%アップ)	17436.00	

【評価】削減目標達成

前年度に引き続き売上原単位を採用しました。今期は、9月より、高津営業所分室が新たな施設として増えました。まずは3ヵ月の運用データを取得して、今年度の三大目標値の再設定を行う予定でしたが、実際に動きだしたのが10月ということもあり、高津営業所分室から生じる三大環境活動のデータは、当初の目標値に吸収することに致しました。施設が増えたことで、当然ながら、二酸化炭素発生の最大要因の電気使用量は増加しますが、省エネタイプエアコン導入、LED蛍光灯の導入、および日常の節電活動で、売上アップによって目標値クリアが可能ではないかと期待しておりました。結果としては予測通り、目標達成となりました。

電気使用量を総量でみると下記のようにになりました。高津も大阪も前年を下回っています。

高津・大阪 月別電気使用量比較表（表1）

電気使用量 kwh	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
2015年	高津	2301	2929	2790	2177	1546	1259	1223	1560	1486	1093	1099	1295	20758
	大阪	1071	1022	1041	976	1080	1162	1395	1693	1611	1121	1132	943	14247
2016年	高津	1641	2354	2279	1861	1154	1069	1275	1407	1599	1419	1250	1681	18989
	大阪	927	1024	1031	1022	863	1067	1312	1470	1331	1245	983	967	13242

1) 5月～10月給湯器の使用停止

継続的活動として初夏から秋にかけての給湯器使用は停止し、LPガスの削減に努めました。

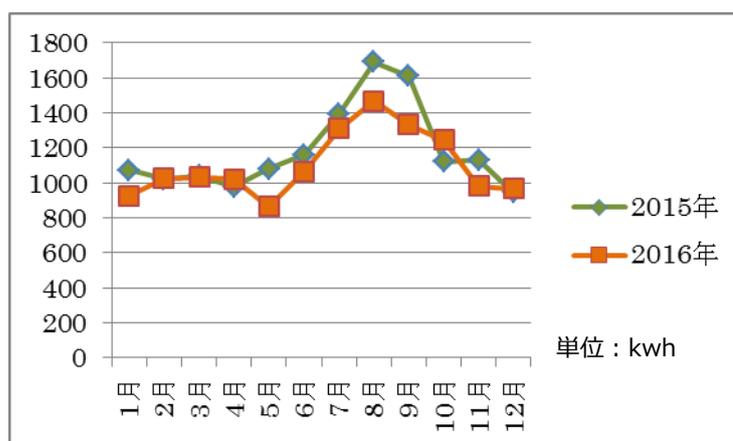
2) サーキュレーターの使用の徹底、空調温度の適正化

室温を冬場は21～22度、夏場は26～27度を目安とし、サーキュレーターの使用により効率的な空気の循環を目指しました。

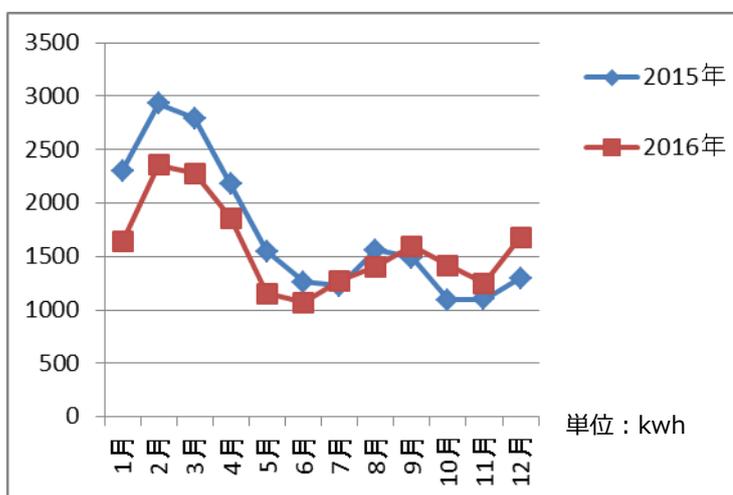
前年の6月に新エアコンを導入した高津営業所は、新エアコンの性能の良さを享受しつつ、節電がなりました。

今年の大阪は酷暑が続き、さらに事務所のレイアウトが南側全面ガラスということで、エアコンをフル活動させても室温が下がりにくく、夏場の電気使用量を押し上げる原因となりました。(表2参照) 世の中の的には、冬場の電気代の方が夏場の電気代よりも高い、ということのようですが、大阪事務所においては、真逆の結果が表れています。大阪の夏の暑さ対策は来年の課題となりました。

大阪 月別電気使用量推移表 (表2)



高津 月別電気使用量推移表 (表3)



3) 電気機器未使用時の電源 OFF

退出時に、コンセントからのプラグの抜き忘れがないか、不要なコンセント使用はないかを確認すること、および、デスク上に不要な電気器具を置きっぱなしにしないよう呼びかけ活動を行いました。これにより机の整理整頓と同時にコンセントの差しっぱなし状態を減少させることができました。

4) 電気ケトル利用の工夫

今までは保温機能付の電気ポットを終日利用していましたが、電気ケトルは電気使用量が少ないということから、今期は電気ポットと電気ケトルの2 Way 使用としました。朝から昼食時までは電気ポットを、午後は必要時に電気ケトルを使用というルールにしました。この状況だけをピックアップしての前年比較はできません。細かい、地味な活動ですが、「積み積み重ねれば・・・」で、継続していきたいと思えます。

【今後の課題】

新施設の高津営業所分室のデータ取得を行い、実態把握に努める必要があります。高津営業所分室にLEDが導入されたことによって、高津営業所のLED導入も検討すべき時になりました。活動としては、すべての拠点において、同内容、同質な活動を実施することです。また、大阪の夏の暑さ対策を講じる必要があり検討致します。

2. 焼却処理廃棄物の排出抑制

【取組み内容】

- 1) 廃棄物の分別化の徹底
- 2) コピー用紙裏面利用の徹底、両面縮小機能の利用
- 3) ミスプリ防止のためのプリンタ設定確認
- 4) あき缶つぶしの購入と利用の徹底

	2015年 排出基準値	2016年 排出目標値	2016年 排出実績	評 価
Kg/売上	0.176	0.169	0.211	×
削減率		-3.4%	+19.9%	
Kg 総量データ	105.00	105.00 (総量現状維持、 売上 3.5%アップ)	132.00	

【評 価】 削減目標未達成

前年に引き続き売上原単位を採用しました。売上目標は達成できましたが、焼却ゴミの排出量も増加（特に高津において）してしまい、結果目標未達成になりました。

1) 廃棄物の分別化の徹底

中途採用の社員が増加しているため、ゴミの分別教育が行き届かず、ゴミの分別化が曖昧になっている傾向がありました。今期は年 2 回の「ゴミの分別教育」を実施して、分別化が低下しないよう活動しました。

焼却ゴミは増加傾向にあります。特に高津は前期比較で 27.97Kg の増加です。その要因は

- ①内勤人数が増加していること。
- ②昼食持参社員の増加。
- ③事務系の焼却ゴミの増加。

が挙げられます。分別には注意を払っていますので、生活系の焼却ゴミ増加は自然増加であると分析しました。年間の高津焼却ゴミ量を高津社員の年間のべ人数で割ると、2016 年は 0.66Kg 2015 年は 0.57Kg で、2016 年の増加は $0.66\text{Kg} - 0.57\text{Kg} = 0.09\text{Kg} = 90\text{g}$ となります。上記の増加要因を考えると異常な増加ではありませんでした。

事務系の焼却ゴミ増加については、小口注文および全国各地の拠点への直送案件が増加しているために宅配送付状の使用量が増加したことにあります。ただし必ずしも出荷件数の増加 = 売上の増加ではないことを経営的観点から分析できたことは重要でした。

高津・大阪 焼却廃棄物量推移表 (表 4)

焼却廃棄物量Kg	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
2015年	高津	5.14	2.63	7.73	14.08	0	10.99	5.87	8.7	4.54	2.7	9.54	7.49	79.41
	大阪	1.08	1.87	2.08	1.94	0	2.12	2.82	1.66	1.83	2.08	2.53	4.97	24.98
2016年	高津	4.21	10.1	11.28	10.11	2.76	16.38	7.13	6.58	9.37	5.3	11.81	12.35	107.38
	大阪	1.46	2.44	2.72	2.17	0	1.26	1.85	1.67	1.66	1.78	4.39	4.03	25.43

2) コピー用紙裏面利用の徹底、両面縮小機能の利用

高津においては、複合機の付加機能の両面印刷、集約印刷を使用して、ペーパー少量化に努めています。大阪においては、基本ペーパーレスで活動していますので、コピー用紙の使用量は節約されています。会議においても、ディスプレイやホワイトボードの使用により、ペーパーレス化を実践しています。

3) ミスプリ防止のためのプリンタ設定確認

ミスプリントが削減されているので、裏面利用のコピー用紙の絶対量も減少しています。

4) あき缶つぶしの購入と利用の徹底

空き缶及びペットボトルの圧縮廃棄は徹底されました。廃棄物の省スペース化に役立っています。

【今後の課題】

廃棄物分別化の啓蒙教育を繰り返し、分別意識の低下を招かないようにします。焼却ゴミの増加は自然増加ではありますが、例えば「マイ箸」使用で割り箸ゴミの廃棄量を減らすなど工夫の余地はあると考えます。また、分別の表示方法にもさらに工夫を加えて、エコ意識を高めます。

今後は経営的な問題に密接に結び付く、長期在庫商品の廃棄削減に着手します。

3. 水資源投入量の抑制

【取組み内容】

1) 節水に努める

	2015年 排出基準値	2016年 排出目標値	2016年 排出実績	評 価
m ³ /売上	0.110	0.107	0.129	×
削減率		-2.7%	+17.3%	
m ³ 総量 データ	52.00	52.00 (総量現状維持、 売上 3.5%アップ)	65.00	

【評価】削減目標未達成

水使用量も目標値を売上原単位としました。大阪事務所はトイレ等水回り系設備がビル内共有のために、数値把握は不可。目標値設定は高津及び本社のみとなっています。

残念ながら総量増加分を売上増加では補うことができませんでした。総量増加の要因は

- ①内勤の従業員が増えたこと。
- ②高津事務所では、夏にウォシュレット機能付トイレに変えたため、必然水道使用量が増加。
- ③分室増設による水道使用の発生。
- ④3Dプリンタ使用頻度増加による水道使用量の増加。

以上が考えられます。

1) 節水に努める

水道水は主として事務所系生活用水としての使用なので、2007年からの削減活動により総量数値は限界まできています。上記状況の変化により水道使用量が増加しましたが、節水には努めて活動しました。今後もレベル維持のために引き続き節水に努めます。

【今後の課題】

高津事務所分室の水使用量を把握し、高津事務所全体の目標値を新たに設定して活動していきます。

4. 化学物質の適正管理

【取組み内容】

- 1) ヘキサンの適正管理・使用記録
- 2) 共晶半田の計測と適正管理

	2016年目標	2016年実績	評価
活動内容	ヘキサン、共晶半田の適正管理	ヘキサン、共晶半田の適正管理の実施	○

【評価】 目標達成

- 1) ヘキサンの適正管理・使用記録
- 2) 共晶半田の計測と適正管理

ヘキサン及び共晶半田は一部業務上で使用しています。日々記録は実施しており、適正管理に努めております。引き続き適正管理を怠らぬように活動していきます。

【今後の課題】

少量でも使用継続せざるを得ないので、引き続き適正管理に努めます。

5. 業務における QCD の向上

【取組み内容】

- 1) ホームページの定期更新
- 2) 日常業務における問題点の顕在化と改善
- 3) ソリューション事業における原価管理の運用

	2016 年重点目標	2016 年実績	評 価
活動内容	ソリューション事業の原価管理の運用	ソリューション事業の原価管理の運用	×

【評 価】 目標未達成

1) ホームページの定期更新

3カ月に一度を定期更新サイクルとしました。サイクル通りにアップできない点もありましたが、重要な事は情報を陳腐化させないことです。ホームページは広告宣伝における強力な媒体であり、かつペーパーレス化にも大いに貢献しました。また、ホームページを通してお客様との情報共有が成立し、同じ土俵でコミュニケーションが取れるので、話の擦れ違いが解消され良好なコミュニケーションが実現できるという利点もありました。

2) 日常業務における問題点の顕在化と改善

以前に比べて、EA21 委員会で取り上げる問題点が少なくなってきました。問題がないということではなく、部内での解決改善ができるようになってきました。

3) ソリューション事業における原価管理の運用

今期の最重要取組み課題は「ソリューション事業における原価管理の運用」でした。今までの課題を洗いだし、作成しやすい原価表作りを目指しました。それにより、正確な情報を積み重ねていけるようになり、チェックもしやすく利用価値が高くなりました。一方、労務時間が把握できないという状況もおき、原価管理に対する社員の個人意識の低さも散見されました。この実施事項を最重要課題としてきたので、目標は未達となりました。

【今後の課題】

ホームページは売上アップに繋がる広告媒体なので、来年もホームページの定期更新は重要な実施事項として取組みます。

ソリューションの原価管理については、今期の問題を解消し完全運用ができるようにします。

6. 製品に関する環境配慮

【取組み内容】

- 1) 箱エコ推進の継続
- 2) 「情報処理票」の運用継続
- 3) 既存製品の設計の見直し
- 4) アダプターの生産計画
- 5) 成型型パッケージングの検討

	2016年重点目標	2016年実績	評価
活動内容	既存製品の設計の見直し	既存製品の設計の見直し	○

【評価】 目標達成

1) 箱エコ推進の継続

今期箱エコ推進活動は3,959箱達成しました。お客様件数が増えないことが課題です。PR不足というのではなく、箱エコ納品できる状況が少ないことが原因ですが、継続して進めていきたいと思えます。

2) 「情報処理票」の運用継続

「情報処理票の運用」は確実に定着しました。

3) アダプターの生産計画

アダプターの発注から納品に至るリードタイムが長いために、生産計画が必要でした。今期は毎月、今後の予測を聴取して、失注が生じないよう取り組みました。

4) 成型型パッケージングの検討

パッケージングの見直し、検討に着手しました。来期も要継続です。

【今後の課題】

環境に配慮した新製品の開発がメーカーとして最重要です。従来の製品を見直し改良点等を探りながら、環境にやさしい新商品を開発していきます。また RoHS 指令対応の問題は大変マンパワーを必要とする仕事ですが、データの収集整理等に取り組んでいくことが重要です。製品開発だけでなく、部品問題に着手してメーカーとしての信頼度をあげることに努力していきます。

7. グリーン購入比率の向上

【取組み内容】

- 1) エコ商品購入比率 70%以上の維持
- 2) グリーン調達の継続

	2016 年重点目標	2016 年実績	評 価
活動内容	グリーン購入比率 70%維持	グリーン購入比率 70%維持	○

【評 価】 目標達成

1) エコ商品購入比率 70%の継続

今期は 93%の達成となりました。購入アイテムが安定化しているために、高比率を維持しています。
エコ商品内容も日々進化しているので、新情報キャッチも重要な活動となっています。

2) グリーン調達の継続

グリーン調達は、このまま継続します。

8. 5S・4定の実施

【取組み内容】

- 1) 商品・部材の定置定物化の実施
- 2) ファイル・表示の統一化の検討と運用

	2016年重点目標	2016年実績	評価
活動内容	商品部材の2定の 実施	商品部材の2定の 実施	×

【評価】 目標未達成

搬入される大量商品の保管場所が慢性的に不足しており、空きスペースを仮置き場とすることが常態化してしまい、雑然感が解消されませんでした。分室を開設したことで、若干スペースが生まれましたが、それを積極的及び自発的に利用するという姿勢が見えませんでした。一度設定したことを見直すPDCAが必要でした。その点を内部監査で指摘されました。「商品部材の2定の実施」は以前に比べると整理整頓は進みましたが、常にスパイラルアップする意識の無さが問題でした。

1) 商品・部材の定置定物化の実施

誰もが必要な物を見つけることができる、という点においては改善が進みました。しかし、上記にも述べたようにスパイラルアップの意識が足りませんでした。

2) ファイル・表示の統一化の検討と運用

部門毎のファイル背表紙カラーの統一、タイトル文字の使用フォントの一律化を実施しました。書類の責任部門が一目瞭然になり、統一感がアップしました。継続することが重要です。

【今後の課題】

今期も未達成にはなりましたが、進歩はしています。さらに必要なのは、社員各人が常に「5S4定」を意識して行動する「くせ」をつけることです。この点を強化する方法を探って活動していきます。



環境関連法規制の遵守状況

(1) 当社に適用となる主な環境関連法規

適用法令	該当する活動	遵守状況
目黒区廃棄物の発生処理抑制、再利用の促進及び適正処理に関する条例・規則	<ul style="list-style-type: none"> ・事業系一般廃棄物等の排出方法、有料ゴミ処理券の貼付 ・廃棄物分別化の徹底 	遵守
川崎市公害防止等環境保全に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> ・生ゴミの適正処理、環境洗剤の使用 	遵守
大阪市廃棄物の減量推進及び適正処理並びに生活環境の清潔保持に関する規則	<ul style="list-style-type: none"> ・事業系廃棄物の発生の抑制、再利用及び再利用の促進と減量 	遵守
消防法	<ul style="list-style-type: none"> ・5S活動-保管庫の適正管理 ・管理責任者の明記、使用手順書による取扱 ・消火器の設置 	遵守
労働安全衛生法	<ul style="list-style-type: none"> ・排気装置の点検 ・専用洗剤の用意と手洗いの実行 	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の分別化の徹底 ・廃棄物処理業者との委託契約、契約終了後の保管 ・マニフェストの交付、回収の日程管理、保管 ・管理票報告書の提出 	遵守
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・業務用エアコンの簡易点検 ・点検及び整備に係る記録と保存 	遵守

(2) 過去3年間、違反はありません。

また、関係機関等からも特に指摘はなく、訴訟も同様にありませんでした。



代表者による全体の取組状況の評価と見直し

三大環境目標については売上原単位を前期に続き採用して活動しました。総量の削減がベースにあつての活動ではありますが、後半戦は売上の目標達成のために頑張りました。結果、三大環境目標につきましては、二酸化炭素の排出抑制では目標達成することができました。前期に引き続き採用した売上原単位は、経営と密接にリンクするので、目標管理しやすいという経営面でのメリットを感じました。焼却廃棄物の削減および水使用量の抑制につきましては、目標売上は達成できたものの、廃棄物の総量及び水使用量が前年を上回ったことにより未達成となってしまったことは残念です。ただ、増加の要因が明確になっているので今後の前進、改善に期待したいと思います。

全体としては、達成、未達成があるものの次第に経営とリンクした活動にスライドしてきていることを実感します。基本としては、三大環境目標以外の目標により重心をかけて、社員の意識においても会社組織としてもワンランク上を目指します。

水道光熱費、ガソリン代、コピー用紙購入、廃棄物処理費用等、環境への取組により経費削減に効果を上げてきましたが、経営的側面からするとそれらは販売管理費の削減です。今後はメーカーとして、環境とリンクしながらの原価の削減、生産性の向上、QCDの向上を経営の中核としなければなりません。このような活動が真にEA21を「やって良かった！」に繋がるものと考えます。

来期も売上原単位を採用して、売上アップの効果を求めたいと思います。また、環境経営という観点から、行動指針の優先順位を変更し「製品に関する環境配慮」をトップに据えます。

目標を達成させるためには、あらゆる面で社員への啓蒙活動・意識教育を実施する必要があります。それにより会社全体として環境活動及び環境経営への意識の底上げをしなければなりません。もう一つ重要なことは、「できない」場合の分析による原因の突き止めです。原因把握が新たな一步の始まりでありスパイラルアップに繋がるので、きちんと Check を行います。

環境活動の取組内容については、各目標の今後の課題のクリアを目指して活動してまいります。

環境経営システムの仕組みを借りて、環境付加低減はもとより、組織の健全化、売上増加等の経営面での効果もあげてまいりたいと思います。

Topics

弊社がエコアクション 21 の認証登録を取得したのが、2007 年 2 月 25 日でした。多くの大手企業様との取引には、環境経営システムの構築が不可欠となり、避けて通れぬ状況になりました。弊社のお客様の伝手でエコアクション 21 の認証取得を目指して、社員一丸となって環境活動に取り組み始めましたのが 2006 年の夏でした。あれから、早 10 年が経ち、2016 年 7 月 26 日、群馬地域事務局様主催のイベント「10 周年記念贈呈式」において、長年にわたりエコアクション 21 に取組み、地球環境保全に貢献したことに対する感謝状と記念品を頂戴致しました。ありがとうございました。もう 10 年が経ったのかという感慨と、まだまだという思いが交錯致します。

これまでご指導頂きました審査人の皆様や事務局様には感謝申し上げます。また、今後ご指導の程宜しく願い申し上げます。

代表取締役 長塚 将